

# 研修報告

## 防災対応した、南三陸町役場新庁舎の視察研修

6月25～27日の日程で、南三陸町役場新庁舎、東日本大震災の復興状況の視察を目的に研修しました。

南三陸町では波を被った土地には住まない決意をし、災害危険地域として住居の建築禁止を条例化、山を削って10m町をかさ上げ、住民の意志を統一して高台移転を実施しました。

役場新庁舎は、被災時の対処を考慮して、高台に役場、病院、体育館を隣接して建設しています。敷地面積8,730㎡、建築面積2,657㎡、延床面積3,773㎡、地上3階建ての新庁舎の財源は、21.5億円の建設費のうち13億円は震災復興特別交付税で賄っています。

施設の特徴として、「マチドマ」（町民と町との協働スペース）を約300㎡確保、待合や休憩だけでなく、各種イベント利用も可能なスペースとしている。また、地中熱を利用した環境にやさしい空調システムを導入しています。

防災・減災への取組として、庁舎への衛星電話の常時開設、主要避難所へのガスバルク設備設置、避難所鍵管理（解錠）システムの導入などを行っています。

翌日は、「三陸鉄道・南リアス線」<sup>さかり</sup>盛駅から<sup>とうに</sup>唐丹駅まで乗車しました。車窓から見る景色の中で、津波で流され真新しく復旧された土手と線路が、朝ドラの「あまちゃん」の1シーンのごとく生々しくよみがえりました。



南三陸町役場庁舎内「マチドマ」